

# 大牟田市立羽山台小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校では、福祉教育と地域との連携を中心に据えながらESDを推進している。1年生から6年生まで発達段階に応じながら計画的に福祉教育を継続し、住みよい社会をつくるために思いやりや助け合いの心を持つ児童の育成をめざし、主に生活科や総合的な学習の時間において実践している。

また、思いやりや助け合いの心を発揮する対象を人だけではなく、ものやことにも広げることができるよう環境教育にも力を入れて実践している。更に今年度は、国語科教育との関連を図った実践を全学年に取り入れた。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

<プロジェクト名「ちいきを愛する羽山っ子プロジェクト」>

学 年	内 容	教科等・時期	ESDで重視する主な能力態度
1 年	「えにつきをかこう」	国語 7月	③多面的, 総合的に考える力
	「むかしからのあそびをしよう」	生活 1月	⑥つながりを尊重する態度
2 年	「声やうごきであらわそう」	国語10月	④コミュニケーションを行う力
	「おいしいの気もちをつたえよう」	生活 2月	⑥つながりを尊重する態度
3 年	「よりよいくらしについて考えよう」	総合10月	⑤他者と協力する態度
	「はたらく犬について調べよう」	国語11月	③多面的, 総合的に考える力
4 年	「守れ! 21世紀の大牟田」	総合 5月～7月	②未来像を予測して計画を立てる力
	「くらしの中にある『和』と『洋』を調べよう」	国語11月	③多面的, 総合的に考える力
5 年	「探検しよう『みんなの地球』」	総合11月～12月	②未来像を予測して計画を立てる力
	「伝えよう委員会活動」	国語 1月	④コミュニケーションを行う力
6 年	「心のふれあい, 伝えあい」	総合10月～11月	④コミュニケーションを行う力
	「将来の夢や生き方について考えよう」	国語 1月～2月	②未来像を予測して計画を立てる力
全学年	「ESD展示会」	2月	③多面的, 総合的に考える力

## 3 特徴的な活動事例

<3年生 よりよいくらしについて考えよう (総合的な学習の時間10月)>

### (1) 目標

- 目や耳の不自由な方の話を聞いて自分なりの課題をつかむことができる。 (問題設定の能力)
- 課題から追求の見通しを持ち, 課題解決につながる資料を集めたり, 体験したりして目や耳, 体の不自由な方の生活や生き方について調べることができる。 (問題解決の能力)
- 目や耳の不自由な方の生活や生き方について, 収集した情報や体験して考えたことなどを自分の考えた方法でまとめることができる。 (学び方・考え方)
- 目や耳の不自由な方の生活や生き方について収集した情報や体験して考えたことなどを, 表現方法を工夫して分かりやすく発表することができる。 (主体的・創造的な態度)



○体験したことや学んだことをもとに、地域で自分たちにできることを見だし、これからの生活に生かそうとする。(自己の生き方)

## (2) 実践の展開

### ①単元の課題設定と見通し

最初にアイマスクを付けて歩く体験をすることで日常における困難さを体験し、「障がいを持つ方々の心に寄り添い、何かできることはないか。」という単元のめあてを設定した。そこで、子どもたちで話し合い、実際にその困難さを感じている方に話しを聞いたり、質問したりすることで、単元の見通しを持った。



【アイマスク体験の様子】

### ②課題追究

聞いた話をもとに、点字やバリアフリー、障害を抱える方々の使う道具などの資料について調べたい意欲を高め、実際にどのように生活し、どのような困難を抱えているかについて調べた。さらに、国語科の関連で、盲導犬についても関心を持ち、盲導犬ブリーダーから、必要のないときに吠えないことや、指示された命令以外行動しないことなど、目が見えない方の立場に立って調教することを考えておられることに気付くことができた。



【点字学習の様子】

### ③発信・振り返り

目や耳の不自由な方々からの話だけでは分からなかったことや、日常的に使っている道具などについて調べ、障害を持つ方々やバリアフリーな社会に向けて、自分たちができることについて発表会を行った。振り返りの段階では、目や耳の不自由な方へ点字などを交えながらお礼の手紙を書いた。



【発表会の様子】

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・町中で困っていることを聞いたり、パラスポーツを体験したりして、本だけでは分からないことを学ぶことができた。
- ・自分の考えを伝えたり、友だちを尊重したりして、グループ内で同じ課題に向かって解決することができた。
- ・探求的な学習を意識した単元計画を設定したことで、児童は探求的な学習の仕方を身につけることができた。

### ○課題

- ・職員のSDGsへの理解が不十分であるため、単元ごとにゴールを明確にし、毎時間掲示するなどの手立てを位置づけることで、児童や職員への理解を促したい。
- ・我が校の特色である、国語科との関連を維持しつつ、外部へ発信する機会を増やし、探求的な見方・考え方が全学年の子どもたちに身につくような教材開発を行っていきたい。